

2023年11月6日(月)

北京市教育視察に参加して (3)

今回、視察した5つ学校の中から、北京市の中心部:東城区にある北京第二中学を紹介しましょう。中国では、中等教育は初級中学と高級中学と呼び、それぞれ日本の中学校と高校にあたります。訪問した北京第二中学校は、日本の高校にあたる公立高校で、かつて明・清朝の王宮があった故宮博物院の東2kmという好立地に位置し、創立は清朝末期の1724(清朝雍正二)年という歴史ある学校です。創立当時、統治者である満州貴族の子弟の教育を目的として創設された学校で、内務部街という四号院の並ぶ路地(胡同フートンという)の中程にあり、古色豊かな門が当時の威容を伝えています。



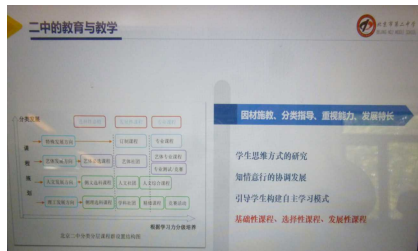
歴史を感じさせる正門

現在は、北京市教育部(教育委員会にあたる)のモデル校の一つで小学校から高校まで、全部で15の分校からなる総合学校です。高校だけでも生徒数は1500人、これを専任教職員150名と非常勤教職員が支えており、Ph.D.やM.A.を持った専任教員も年々増加しています。同校のモットー(校訓)は、「献身、忠誠、協力」と「団結、創造、粘り強さ」となっています。



校舎模型より

特に、最新の科学技術教育に関して独自のカリキュラムを有する実証校で、普通教室の他にも天文台、バイオテクノロジー実習室など60以上の専門教室が充実しています。



北京第二中学校の教育構成

高校の敷地面積は約 2 万 km² と、サッカーコート 3 面分の広さを誇りながら、校内には蔦の絡まる伝統的な集会所やホールなど独立した歴史的建物もあり、高校生は学年ごとに 4 階建ての校舎を使っています。なお、北京では 400m トラック・6 レーンの人工芝グラウンド*が標準施設とされ、都心部にありながらも広大なグラウンドに恵まれています。

さらに、古書収集室、録画スタジオ、アニメーション創作スタジオ、金属加工室、などの特別教室が充実していることでした。中でも、私が驚いたのは教師博物館の存在で、歴代の優秀教員の紹介に留まらず、彼らが使ったノートや参考図書などが展示・陳列されていたことです。

高校棟群とは別に、同じ敷地内に国際部(1 学年 2 クラス 60 名)も併設されており、日本をはじめスイス、デンマークやフィンランド、シンガポールなど海外の 11 か国の高校と提携を結び、交流を行っています。アメリカ合衆国の高校と提携しており、日米同時の高校の卒業資格を得ることも可能だそうです。

* 人工芝のグラウンドに使われているゴムチップは日本では黒色が一般的ですが、中国ではグラウンドの表面温度が上がるのを防ぐため緑色チップを使っていました。

高二 1 期 物理 1 期 化学 1 期 生物 1 期	高二 6 期 物理 C1 期 生物 C1 期 地理 C1 期	高二 9 期 物理 1 期 化学 1 期 地理 1 期	高二 11 期 生物 1 期 化学 2 期 歴史 2 期
高三 2 期 物理 2 期 化学 2 期 生物 2 期	高三 5 期 物理 C1 期 生物 C1 期 地理 C4 期	高三 8 期 歴史 C1 期 歴史 C2 期 地理 2 期	高三 10 期 物理 1 期 物理 2 期 化学 2 期

高校2-3年生の科目選択構成



教師博物館



ロボット実習室



体育祭の応援練習に励む高校生

(つづく)

校長 石飛 一吉